

自転車記者が行く



佐藤将人



スチールパンの伝道師

スチールパンって楽器、知ってます？ ドラム缶からできた、南米トリーニダード・トバゴ発祥の産

油国ならではの打楽器だ。その日本初という専門店が、横浜市港北区新羽町にあった。名前

は「スチールパンガレージ」だ。親会社の野中貿易は1953年から楽器の輸入を手掛ける。「12年ほど前に試しにスチールパンを入れてみたら、これは面白いとなった」と店長の西原大樹さん(44)。

2007年に同市中区で専門店を開き、09年に移転した現在の倉庫兼ショップでは、教室も行つ。上面にある微妙な凹凸が音階をつくる。金属音が波間を漂うように柔らかく響く。いい。元がドラム缶とは粗野な楽器かと思いきや、音階は一見バラバラなように規則性があり、驚く。「トリーニダードでは国民楽器に指定されています」。へえ。

同店の存在も手伝って、横浜は4団体が活動する「本場」だ。夏にはフェスも主催する。年に1度は本場から調律師を呼び、全国のパンを直す。サッカー日本代表が「母国」と対戦する際にはトリーニダード大使館から要請され、パン

スチールパンを奏する西原さん。狭いマーケットなので、ショップは土日だけのオープンです。港北区新羽町のスチールパンガレージ

を持って国立競技場に駆けつけた。まさに伝道師だ。

低音のシックススペースは直径

60㎝、高さ90㎝のドラム缶そのもの

が6個で1セット。こんなもので

かいマイナー楽器を在庫に抱える

のだから、筋金入りだ。「職人が

ハンマーで作るから、同じ種類で

も音に個性がある。実際にたいて

て自分に合うのを探してほしい。

やるならそこん。気持ちいい。

「すぐに音が出せるし、楽器が

続めなくても何となく「それっぽ

く」できる。今さらギターやピアノ

はちよつとという人にも、敷居

の低い楽器なんです」

ちなみに南国の楽器とあって、

そっち系統の人が飛びつきや

すいという。素天的で大きっぱな

人間と相性が良いということか。

どうりで自分には、心地よく響く

わけだ。

当欄担当の佐藤将人が「自

転車記者」として横浜を走り

回ります。随時掲載。情報提

供は連絡先を明記の上、ファ

クス045(227)015

0まで。

2010年5月から11年12

月までの掲載が「突撃」よこ

はま村の100人「自転車記

者が行く」(春風社)という

本になつて発売中(1575

円)です。